

数理計画法 第1回

塩浦昭義

情報科学研究科 准教授

shioura@dais.is.tohoku.ac.jp

<http://www.dais.is.tohoku.ac.jp/~shioura/teaching>

この講義について

- 目的: 数理計画問題の様々なモデル, その数学的構造, および最適解を求めるアルゴリズムについて学ぶ
- 教科書: 福島雅夫「新版 数理計画入門」
- 授業の情報はWebページからも入手可能
- エネルギーコースの受講生は事前に申し出ること
(申し出のない場合は単位不可の可能性有り)
- 再履修の受講生は, 出来ればメールにて
連絡ください



成績の評価方法

- 試験(中間, 期末)70%
- 毎回のレポート30%
 - 中間試験までにレポート未提出の場合,
中間試験受験不可
 - 中間試験以降にレポート未提出の場合,
期末試験受験不可
- 出席は基本的に考慮しません
- 合格の基準
 - 中間, 期末ともに30点以上(レポート提出状況がよい場合には, 25点以上)
 - 全体での合計が60点以上

数理計画

- 数理計画問題とは？
 - 狭義には: **数理**(数学)を使って**計画**を立てるための**問題**
 - 広義には: 与えられた評価尺度に関して
最も良い解を求める問題(最適化問題)
- 数理計画で扱う, 基本的なモデル
 - 線形計画問題(線形最適化問題)
 - ネットワーク計画問題(ネットワーク最適化問題)
 - 非線形計画問題(非線形最適化問題)
 - 組合せ計画問題(組合せ最適化問題)

線形計画問題の例1: 生産計画問題

- 工場での生産計画
 - 4種類の原料A, B, C, Dを用いて
 - 3種類の製品I, II, IIIを生産する(生産量は実数値と仮定)
 - 利益を最大にしたい

各製品を1単位生産したときの利益(単位: 万円)

I	II	III
70	120	30

各原料の使用可能量

A	B	C	D
80	50	100	70

各製品を1単位生産するのに必要な原料の量

原料\製品	I	II	III
A	5	0	6
B	0	2	8
C	7	0	15
D	3	11	0

生産計画問題の定式化

- 数学モデルとして定式化 (数式を使って表現)
 - 何を変数とするか？
 - 各製品I, II, III の生産量を x_1, x_2, x_3 とおく
 - 目的: 総利益は $70x_1 + 120x_2 + 30x_3$ (万円) ← 最大化する
 - 条件:
 - 原料の利用可能量を超えてはならない
 - 原料A: $5x_1 + 6x_3 \leq 80$
 - 原料B: $2x_2 + 8x_3 \leq 50$
 - 原料C: $7x_1 + 15x_3 \leq 100$
 - 原料D: $3x_1 + 11x_2 \leq 70$
 - 生産量は0以上: $x_1 \geq 0, x_2 \geq 0, x_3 \geq 0$

生産計画問題の定式化:まとめ

- 目的: $70x_1 + 120x_2 + 30x_3 \rightarrow$ 最大化
- 条件: $5x_1 + 6x_3 \leq 80$
 $2x_2 + 8x_3 \leq 50$
 $7x_1 + 15x_3 \leq 100$
 $3x_1 + 11x_2 \leq 70$
 $x_1 \geq 0, x_2 \geq 0, x_3 \geq 0$

一般に,

目的が一次関数の最大化(最小化)

条件がいずれも一次の不等式(等号付き)または等式

→線形計画問題

最大化(最小化される関数)は

条件は

目的:

1次関数(線形関数)の
最大化

条件:

1次(線形)の不等式(等
号付き)

目的関数

制約(制約条件)

数理計画問題の定義

- **数理計画問題**は、下記のように表される問題
 - **目的関数**: $f(x_1, x_2, \dots, x_n) \rightarrow$ 最小(または最大)
 - **制約条件**: $x \in S$
 - $f(x_1, x_2, \dots, x_n)$ は変数 x_1, \dots, x_n に関する関数(**目的関数**)
 - S はベクトル (x_1, x_2, \dots, x_n) の集合(**実行可能集合**)
 - S の要素は**実行可能解**
 - 目的関数を最小(または最大)にする実行可能解は**最適解**

- **目的**: $70x_1 + 120x_2 + 30x_3 \rightarrow$ 最大化 $\rightarrow f(x_1, x_2, x_3) = 70x_1 + 120x_2 + 30x_3$
- **条件**:
 - $5x_1 + 6x_3 \leq 80$
 - $2x_2 + 8x_3 \leq 50$
 - $7x_1 + 15x_3 \leq 100$
 - $3x_1 + 11x_2 \leq 70$
 - $x_1 \geq 0, x_2 \geq 0, x_3 \geq 0$ $\rightarrow S =$ 左の条件を全て満たす (x_1, x_2, x_3) 全体

線形計画問題の例2: 輸送問題

- ある会社の輸送計画
 - 2つの工場 A_1, A_2 で製品を生産
 - 3つの取引先 B_1, B_2, B_3 に納入
 - 輸送コストを最小にしたい

各工場の生産量

A_1	A_2
90	80

各取引先の注文量

B_1	B_2	B_3
70	40	60

輸送コスト

	B_1	B_2	B_3
A_1	4	7	12
A_2	11	6	3

輸送問題の定式化

- 変数の設定: 工場 A_i ($i=1,2$)から取引先 B_j への輸送量 $\rightarrow x_{ij}$

- 目的: 総輸送コストを最小に

$$4x_{11} + 7x_{12} + 12x_{13} + 11x_{21} + 6x_{22} + 3x_{23} \rightarrow \text{最小化}$$

- 工場での生産量に関する条件:

$$x_{11} + x_{12} + x_{13} = 90, \quad x_{21} + x_{22} + x_{23} = 80$$

- 取引先での注文量に関する条件:

$$x_{11} + x_{21} = 70, \quad x_{12} + x_{22} = 40, \quad x_{13} + x_{23} = 60$$

- 輸送量に対する非負条件:

$$x_{ij} \geq 0 \quad (i = 1,2, j = 1,2,3)$$

輸送問題の定式化:まとめ

目的関数: $4x_{11} + 7x_{12} + 12x_{13} + 11x_{21} + 6x_{22} + 3x_{23} \rightarrow$ 最小化

制約条件: $x_{11} + x_{12} + x_{13} = 90, \quad x_{21} + x_{22} + x_{23} = 80$

$x_{11} + x_{21} = 70, \quad x_{12} + x_{22} = 40, \quad x_{13} + x_{23} = 60$

$x_{ij} \geq 0 \quad (i = 1, 2, j = 1, 2, 3)$

目的が一次関数の最大化(最小化)

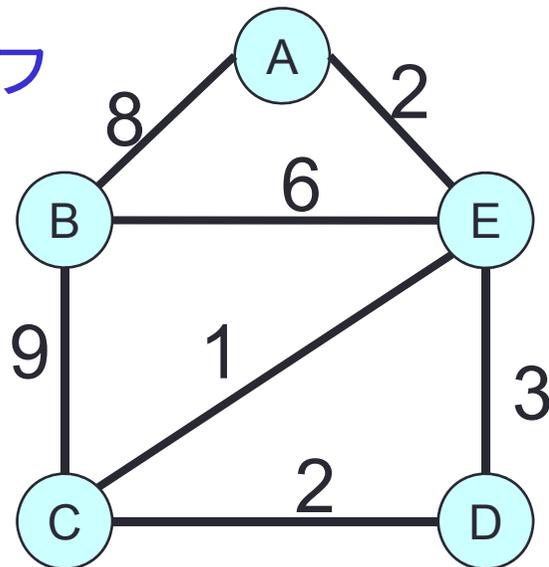
条件がいずれも一次の不等式(等号付き)または等式

→これは線形計画問題

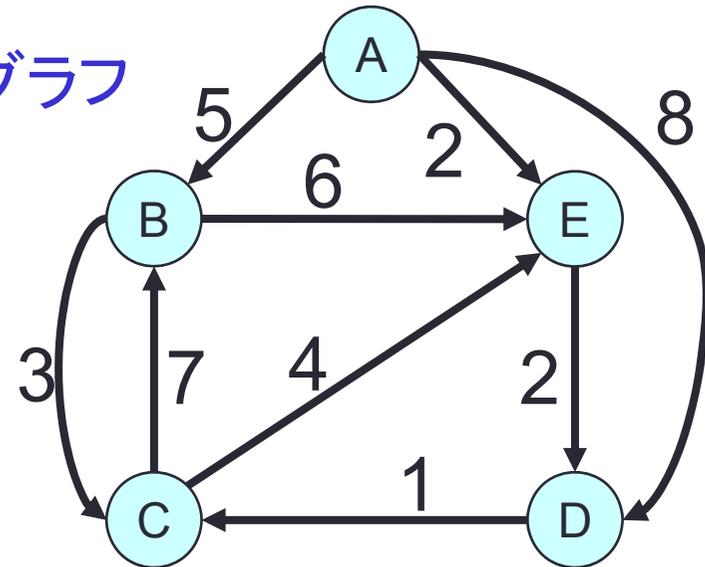
ネットワーク計画問題

- (無向、有向)グラフ
 - 頂点 (vertex, 接点、点) が枝 (edge, 辺、線) で結ばれたもの
- ネットワーク
 - 頂点や枝に数値データ (距離、コストなど) が付加されたもの
- ネットワーク計画問題
 - ネットワークを使って表現される数理計画問題

無向グラフ



有向グラフ



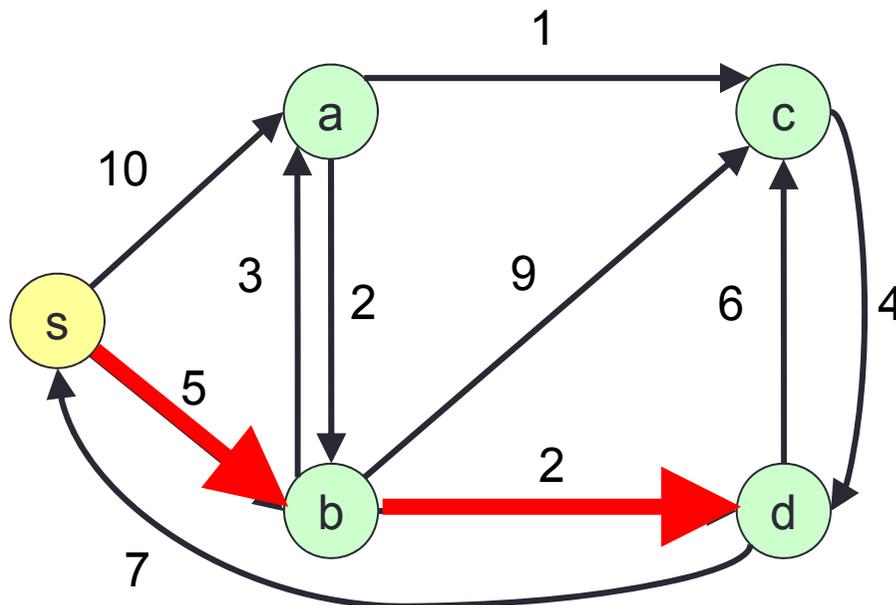
ネットワーク計画問題の例1: 最短路問題

仙台駅から
勾当台公園までの
最短経路を
求めたい
→グラフを使って
モデル化



最短路問題の定式化

- 入力: 有向グラフ $G=(V, E)$
各枝の長さ $l(e)$ ($e \in E$), 始点 $s \in V$, 終点 $d \in V$
- 出力: s から d への**最短路**
= s から d への路(パス)のうち,
路に含まれる枝の長さの和が最小のもの)

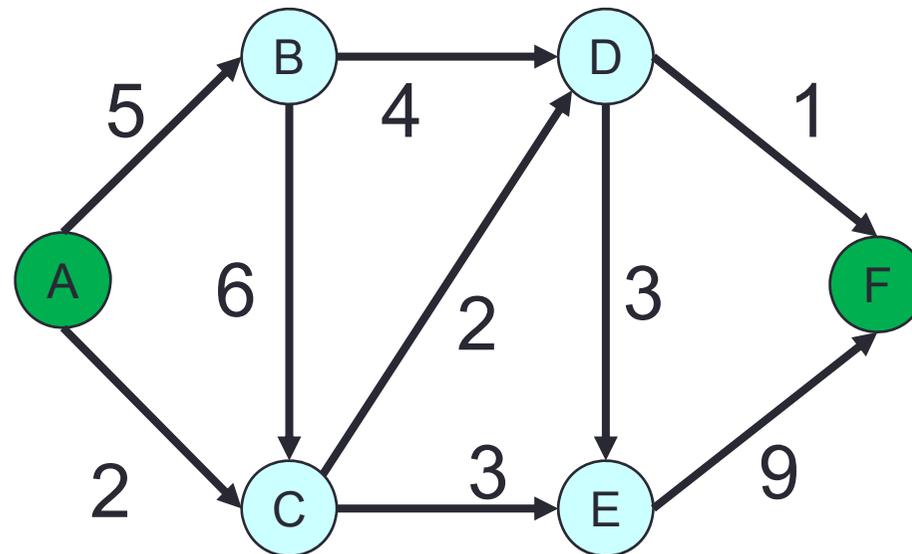


ネットワーク計画問題の例2: 最大フロー問題

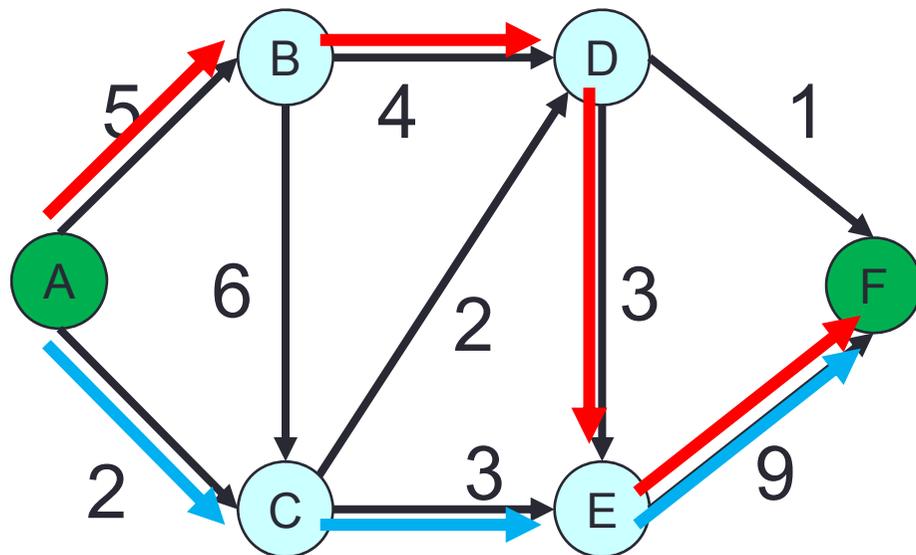
- 運送会社の輸送計画
- A市からF市まで, 出来るだけ多くの荷物を送りたい
 - 複数の経路を使うことが可能
- 各都市間には輸送可能量の上限がある(トラックの台数など)
- 途中の都市(B,C,D,E)では荷物の積み替えを行う

AからBへは最大5単位
の荷物が輸送可能

BからDへは最大4単位
の荷物が輸送可能



最大フロー問題の具体例



A→B→D→E→F という経路で3単位の荷物を輸送

A→C→E→F という経路で2単位の荷物を輸送

...

非線形計画問題の例1: 資源配分問題

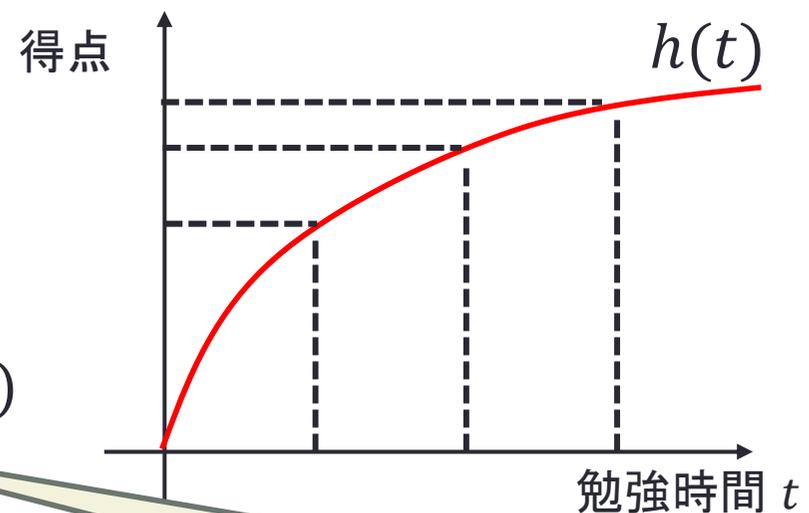
- Y君の試験勉強の時間配分を決める
- 受験科目は A, B, C の3つ
- 試験勉強時間は最大 20 時間
- ある科目の勉強時間と試験の得点(の期待値)の関係は以下の通り(単調増加, 上に凸)
- 3科目の合計得点を最大化したい



目的関数: $h_A(t_A) + h_B(t_B) + h_C(t_C)$

制約条件: $t_A + t_B + t_C \leq 20$

$t_A \geq 0, t_B \geq 0, t_C \geq 0$



目的関数が非線形関数
→ 非線形計画問題

非線形計画問題の例2: 交通流割当

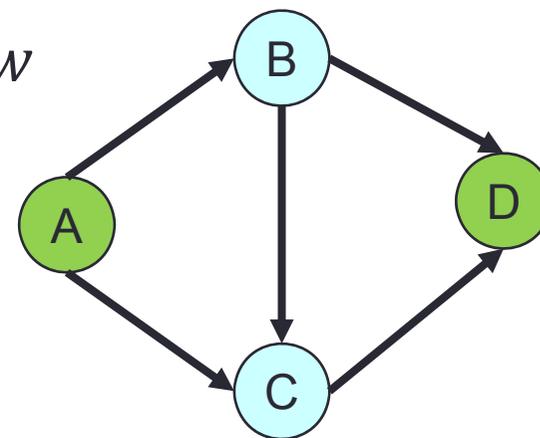
- 下記のグラフで表される道路網を考える
- A地点からD地点へ行きたい自動車が w 台
- 渋滞をなるべく避けるため, 車の流れをうまく制御したい

- 各枝を通過する車の台数: $x_{AB}, x_{AC}, x_{BC}, x_{BD}, x_{CD} \geq 0$
(車の台数は本来は整数だが, 簡単のため実数とする)

- A地点から出ていく車の総数: $x_{AB} + x_{AC} = w$

- B, C地点では, 入ってくる車の台数
= 出ていく車の台数:

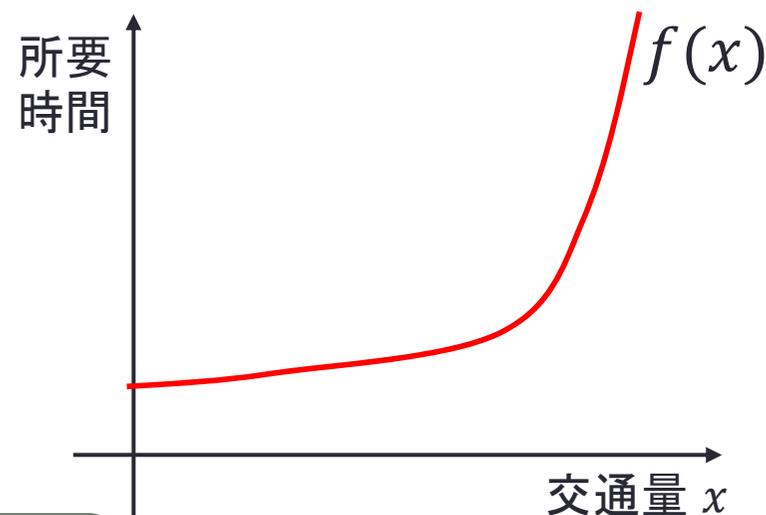
$$x_{AB} = x_{BD} + x_{BC}, \quad x_{AC} + x_{BC} = x_{CD}$$



交通流割当の定式化

- 目的: 全ての自動車の総所要時間の合計を最小化
 - 各区間(各枝)での所要時間は交通量に依存して決まる
- 総所要時間は

$$\begin{aligned} & x_{AB}f_{AB}(x_{AB}) + x_{AC}f_{AC}(x_{AC}) \\ & + x_{BC}f_{BC}(x_{BC}) + x_{BD}f_{BD}(x_{BD}) \\ & + x_{BD}f_{BD}(x_{BD}) \end{aligned}$$



目的関数が非線形関数
→ 非線形計画問題

整数計画問題の例1: 生産計画問題

工場での生産計画

- 4種類の原料A, B, C, Dを用いて
- 3種類の製品I, II, IIIを生産する
- 利益を最大にしたい

生産量が整数値の場合を考える
例: 自動車, 住宅

各製品を1単位生産したときの利益(単位: 万円)

I	II	III
70	120	30

各原料の使用可能量

A	B	C	D
80	50	100	70

各製品を1単位生産するのに必要な原料の量

原料\製品	I	II	III
A	5	0	6
B	0	2	8
C	7	0	15
D	3	11	0

生産計画問題の定式化

• 目的: $70x_1 + 120x_2 + 30x_3 \rightarrow$ 最大化

• 条件: $5x_1 + 6x_3 \leq 80$

$$2x_2 + 8x_3 \leq 50$$

$$7x_1 + 15x_3 \leq 100$$

$$3x_1 + 11x_2 \leq 70$$

$$x_1 \geq 0, x_2 \geq 0, x_3 \geq 0$$

x_1, x_2, x_3 は整数

変数(の一部)に
整数条件が付加
→ 整数計画問題

見かけは線形計画問題と同じ
でも、最適解の計算は格段に難しくなる

整数計画問題の例2: ナップサック問題

- ハイキングの準備
- n 個の品物の中から持って行くものを選択
- ナップサックには b kg まで入れられる
- 品物 $i = 1, 2, \dots, n$ の重さは a_i kg, 利用価値は c_i
- 利用価値の合計を最大にしたい



目的関数: $\sum_{i=1}^n c_i x_i \rightarrow \text{最大}$

制約条件: $\sum_{i=1}^n a_i x_i \leq b$

$x_1, x_2, \dots, x_n \in \{0, 1\}$

変数の全てが
0または1

→ 0-1整数計画問題

レポート問題(※切:10月13日13時5分)

問1: 次の工場での生産計画を線形計画問題として定式化せよ.

- 2種類の原料A, Bを用いて2種類の製品I, II, IIIを生産したい.

目的は利益を最大にすることである.

生産量は実数値とする. データは以下の通りである.

各製品を1単位生産したときの
利益(単位:万円)

I	II
3	2

各原料の使用可能量

A	B
10	5

各製品を1単位生産するのに
必要な原料の量

原料\製品	I	II
A	5	3
B	1	2

レポート問題

問2: 問1で定式化した線形計画問題の実行可能集合を図示せよ. また, 最適解を求めよ.

問3: 問1の生産計画において, 生産量を整数値に限定する. この場合の生産計画を, 整数計画問題として定式化せよ.

問4: 問3で定式化した整数計画問題の実行可能集合を書け. また, 最適解を求めよ.

レポート作成上の注意

- 書籍やWebページなどを参考にしてレポートを作成した場合、その出典を必ず明記すること。
- 他の学生と共同でレポートを作成した場合は、その旨をレポートに書くとともに、レポート作成に関わった学生の名前を全て明記すること。
- これらが守られない場合には、成績を(大幅)減点することもあります。